

その後いがかお過ごしていますか？プロジェクト



とよた森林学校OB会



対応してくれた人の名前：山本薫久
 調査員：松井賢子
 レポート作成者：松井賢子
 取材日：2016年11月8日
 取材場所：とよた都市農山村交流ネットワーク事務所

活動内容(「山村再生担い手づくり事例集」より)

『とよた森林学校』の修了生たちが任意に集まり、OB会として組織化した。幹事は、山主から2人、観察リーダーから2人、森林ボランティアから2人、その他から2人を選んで、多様な人に担ってもらうようにしている。

- 自然観察会：リピーターの受け皿として、そして森林学校ではカバーできない地域外のフィールドなどで、自然観察会を行っている。また、「樹木観察会」は、この地域の樹木を学習する趣旨で開講している。
- 間伐モニタリング調査：間伐ボランティアが施業した場所の間伐前、間伐後の推移を調査している。
- 間伐技術ステップアップ講座：森林ボランティアの技術向上のための講座を行っている。
- 木工教室：間伐材でベンチを作っている。

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

NPO法人「都市と農山村交流スローライフセンター」が事務局の中心になり数年活動してきたが、数年前からOB会の幹事さん自らが事務局的な活動をしてきて、今では多くのメンバーが運営に直接参加してきている。年4回発行する「OB会だより」の原稿や写真も積極的に集め、編集もプロ級の腕前をもつ方が受け持っている。

また、観察会などの担当も分担し、当日の出欠・会費納入・案内も分担している。文字通り、OB会の幹事のみなさんの自治で運営されている。

最近の活動(矢作新報2016年4月の記事より)

「元気な森林市民活動！・・OB会」 山本薫久 2016. 4月

知っているでしょうか。ある同窓会が元気なのです。しかも、みんな森林が大好きで、樹木の勉強や森林の保全の取り組みをしていたりしています。しかし、大学の林学科のOB会ではないのです。

それは「とよた森林学校OB会」。豊田市主催、豊田森林組合運営の「とよた森林学校」。その卒業生たちが自主的に作っているもの。

そもそもの「とよた森林学校」をご存知の方は多いと思いますが…。毎年約15の講座を開設していて、今年度で10周年。そうです。豊田市が農山村地域と合併した直後に開設された「学校」なのです。セミプロ林業作業員養成講座(約10回講座)や間伐ボランティア初級講座(2泊3日の講座)など「人材育成コース」と、森林の草花調べ(3回講座)や森と人の文化史(3回講座)など「森の応援団コース」の2種類があります。

その卒業生たちが6年前に結成したのが「とよた森林学校OB会」なのです。それ以前にも二つの森林市民活動グループがありました。間伐ボランティア初級講座(森林学校開設前の旧豊田市主催の森林塾も含め)の卒業生は矢作川水系森林ボランティア協議会関係の森林ボランティアとして活躍していました。そして、森林観察リーダー養成講座の卒業生も「森もり会」というグループを作って活動していました。

しかし、その二つのグループを含め、とよた森林学校だけでは満足できない「市民パワー」が、財源も運営も自分たちでやろうと立ち上がったのです。年会費千円で188人の会員。27年度だけでも15企画のべ500人の参加。独自の「OB会だより」4回発行。山主・森林ボランティア・観察リーダー・木使いの各分野からの人材で構成される幹事会は11回。ますます自治力を高めています。乞うご期待！

写真

